

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢771-2

TEL:0556-22-8154 FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

峡南地推協 新会長 あいさつ



地推協 石原 政至 新会長

この地域教育推進連絡協議会は、平成17年2月に望ましい教育環境、社会環境づくりを願って結成された、峡南地域の教育機関や行政機関、数多くの地域住民の皆さま方の20を超える団体の連合体です。そして、「地域の子どもたちをどう育てていくか」を柱に、これまでも講演会の企画運営など様々な活動を行ってきました。

峡南地域には、少子化や過疎化の進行の著しさに伴う共通する課題もありますし、個々の町での課題もたくさんあります。また、そこに暮らす地域住民の生き方や価値観の違いも当たり前にありますし、地域共同体をどう捉えているかなどの意識の違いも当然にあることでしょう。そのなかから生じる様々な教育的な課題をとらえ、集約したり、掘り起こしたりして、子どもたちの健全な育成のためにどうつなげていくか、また、様々な教育改革や教育の今日的課題

も、決してこの地域教育と無関係ではなく、また、無関心でもられません。それらもどうつなげて子どもたちの成長を図っていくかなど課題は尽きません。

私たち地推協は、教育事務所や関係機関のご指導やご協力をいただきながら、それぞれの構成団体が力を付け、有機的に結びつき、課題を共有し、学び、連携していきたいと思っております。そして、何とか子どもたちに、地域の皆さまに、よりよい教育環境づくりに生きた働きかけができるように努力していきます。「異校種連携セミナー」「教育フォーラム」「人権講演会」「子育て学習会」など様々な機会を通して、皆さまの先頭にたって活動を進めていきたいと思っております。

皆さまのご理解とご指導をよろしくお願いいたします。

かけはし157号の誌面

- p1 地推協会長挨拶 人権講演会の御案内
- p2 異校種連携セミナー要旨
- p3 連載『峡南の食材・食育』
No.22 南部町おやこ料理教室
- p4 スクールガードリーダー紹介
高校説明会紹介(身延山高校)

峡南地域 人権講演会 の御案内

- ・日時：平成30年11月13日(火) 午後1時50分～
(受付 午後1時20分～)
- ・会場：身延町総合文化会館 2階会議室(身延町波木井407)
- ・内容：「**非行の発生原因と立ち直りに必要な支援**」
～ 家庭・学校・地域の力 ～
- ・講師：甲府少年鑑別所 首席専門官 外川 江美氏
H2年に法務省入省、法務技官として各地の少年鑑別所、少年院、刑務所勤務。H29より現職。
- ・参加者：保育所(園)・幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校の保護者・
教職員、教育委員会関係者、地推協関係者、地域住民の皆様
- ・申込み：11月6日(火)までに電話、fax、メールにて、担当まで申込みをお願いします。
- ・申込先：山梨県教育庁峡南教育事務所 地域教育支援担当 片田・小林 TEL：0556-22-8154
FAX：0556-22-8144 eメール：katada-rxbc@pref.yamanashi.lg.jp (片田)



平成30年度 嶺南地区 異校種連携セミナー

7月3日に身延町総合文化会館で開催された講演の要旨を紹介いたします。



佐柳 信男 氏

「教育の中で自発性を育む」

英和大学 人間文化学部 人間文化学科 准教授 佐柳 信男 氏

1. 自発性とは？ 自発性の「完成形」

自分から進んで取り組んでいると思っている、かつ納得して取り組んでいる。興味を持っている、もしくは大切だと思っている。「自発的」は「自由奔放」とは違う。いろいろなルールや約束事の範囲内で「自由」にふるまえることや、ルールを上手く使うのが自発性である。

2. 誰もが生まれ持つ「自発性」の芽 ～内発的動機づけ～

「やる気」には種類があり、自発的なものと外発的なものがある。「内発的動機づけ」とは、興味・好奇心・楽しさに基づいたモチベーションからなる。その対義語である外発的動機づけには、ごほうびをもらうためや罰を避けるためのモチベーションがあり、行動は目的達成の手段である。一方、内的動機づけでは行動自体が目的で、その行動には様々なメリットがあり、「創造性・創意工夫」や「精神的な健康」があげられる。

内的動機づけは成長につれて発達する。生まれたときから「自由奔放・刹那的な楽しさ」はあり、乳幼児から「身近な人を喜ばせる楽しさ」が見られる。小学校高学年からは「社会的に大切なことをする喜び」があり、段階的に進むと言うより、レパートリーが増えていくイメージである。

3. 発達段階ごとの「自発性」を育てるポイント

1才まで：自発性の基礎を育む 基礎となるのは「他者に対する信頼感」

4才まで：「ルールに合わせる」練習 「自分をコントロールする感覚」をつかむ

就学前頃まで：「目標を目指して努力する」練習 「目的意識を持つ」感覚をつかむ

小学校以降：「達成することの快感」をつかむ 「自分で納得できる結果を得る」感覚をつかむ

4. 自発的な取り組みを促す

自発性に必要な3つの条件

1. 課題を出す人との関係がよいこと
2. 課題から手応えを得られること
3. 「やらされている」と感じないこと

就学前

とにかくほめる。周囲の人が「喜んでくれるからやる」

自発性。ほめると関係が良くなり、手応えも感じる。「やらされる」ことには敏感なので要注意する。

「命令」せずに、選択肢のある「提案・アドバイス」をして、自己決定を促す。

就学後 上記3つの条件を考慮する。

1. 課題を課す人に対する子どもの主観的な信頼感が大事で、課題達成に困った時に頼れるかがカギ。

2. 課題は難しすぎず、簡単すぎず、手応えが得られる設定。本人ができた、できないの判断ができるもの。いつ、どのように、どのくらいの注力で、どのような結果を期待できるか明示する。本人が努力の量を自分で決めてコントロールできるようにすることが、自発的取り組みを生むのに効果的。

3. 「やらされている」と感じさせないために、強制・命令をしない。課題の意義を伝えて「なぜ大事なのか」がわかると自発的にやろうと思いがやすい。課題への反感は否定しない。

5. 注意したい「自発性」の落とし穴 見せかけの自発性

「言われなくてもやっている」ように見えても、本当の意味での「自発性」でない場合も多い。

①「できないと恥ずかしい」と思っている場合：失敗したときのダメージが大きい

②かっこつけてやっている場合：背伸びや挑戦をしないので力が伸びにくい。できることしかしない。失敗しそうになると辞めてしまう。 ③罰が怖い場合：罰する人がいない場面ではやらなくなる。

④ごほうび目当ての場合：ごほうびがなくなるとやらなくなる。

<自発性を育むことの大切さと難しさを実感する講義でした。参加者は熱心に傾聴していました。>



会場は満員でした。講演後の質疑応答の様子↑

☆連載『峽南の食材・食育』No.22

南部町「公民館講座 おやこ料理教室」と食改さん



四條 芙美子会長

【南部町の食改さん】南部町の食改さんこと「南部町食生活改善推進員協議会」は、四條 芙美子 会長を含め、今年度は120名で活動しています。

【南部町夏休みおやこ料理教室】8月4日（土）に、公民館講座「おやこ料理教室」を、南部町本町役場横の地域活性化センターで開催しました。目的は、「子どもの成長が著しい大事な時期に親子が共に調理体験することで食事の大切さを学び、親子のコミュニケーションの充実を図る。」ことです。7組の親子（合計17名）と推進員11名が参加しました。子どもたちは小学1年生～4年生で、富河小2名、睦合小4名、栄小2名、万沢小2名の合計10名でした。

メニューは、手作りマヨネーズと夏野菜サラダ、ジャージャー麺に、パイン入りミルク寒天。ビタミンB1が豊富な豚肉をつかったり、旬の地元野菜を沢山食べられる工夫をしたりして、夏バテ防止策が満載でした。子どもたちが慣れない手つきで真剣に料理に取り組む姿と、それを熱心に支援する推進員の方々の姿勢と笑顔が印象的でした。親子で食に取り組み、健康な食を次世代に伝承する貴重な機会でした。



【今回の夏野菜をつかった健康メニュー】

（1）【 手作りマヨネーズ （できあがり量約80g 大さじ7程度） 】

■材料 サラダ油80ml 卵（黄身）1個（常温に戻しておく！） 酢 大さじ1/2 塩 大さじ1/4

■作り方 ①ボールに卵黄、酢、塩を入れ、もったりとするまで、泡立て器で良く混ぜ合わせる。

②サラダ油を少しずつ加え、そのつどよく混ぜ合わせ、白っぽくクリーム状になったらできあがり。

（2）【 夏野菜サラダ （材料1人分） 】

■材料 じゃがいも40g きゅうり40g 人参 20g ミトマ2個 かつら2本 塩少々 酢1杯

■作り方 ①じゃがいも、にんじんは皮をむいて1cm角の棒状に切り、火が通るまで茹でる。②オクラは塩でもんで洗い、茹でて縦半分にする。③きゅうりは長さ10cmの棒状に切る。④皿にレタスをしき野菜を盛る。

（3）【 ジャージャー麺 （材料1人分） 】 豚肉のビタミンB1で疲労回復！

■材料 中華麺半玉 豚挽肉 20g 人参15g 玉ねぎ45g 長ネギ10g にら5g にんにく1g 生姜1g サラダ油1g <調味料A>味噌7g テンメツ 5g 醤油4g 味醂1g ごま油少々 水溶き片栗粉 小さじ1



■作り方 ①にんにく、生姜、人参、玉ねぎ、長ネギは粗みじん切り、にらは1cmに切る。②上記の調味料Aを混ぜ合わせる。③サラダ油でにんにく、生姜を炒め、肉も入れて色が変わったら、人参、玉ねぎ、長ネギを入れる。④火が通ったら調味料Aとにらを加える。肉味噌完成！！⑤ 沸騰湯で麺を30秒～1分ゆで、水洗いしてザルにあげる。⑥麺がくっつかないようにごま油をまぶす。⑦麺を器に盛り、肉味噌をかけて完成。

地域の方々に支えられて集団登下校



六郷小中学校のスクールガード総会の様子

学校内外の巡回等を行う学校安全ボランティア（スクールガード）の方々が、児童生徒の登下校を見守ってくださっています。散歩や買い物の時間を、児童生徒の下校時刻に合わせている地域の方々も増えています。それぞれの町が、町ぐるみで取り組んでくださっているのです。まさに、地域住民が「子ども達の見守り隊」です。



増穂小学校 集団登校の様子

また、各町にはスクールガードリーダーが、児童生徒の安全を守ってくださっています。学校に対し、巡回のポイントや不審者への具体的な対応等についての情報提供や指導と評価を行うのもスクールガードリーダーです。



富士川町
櫻田 等さん



富士川町
青柳優一さん



市川三郷町
網倉光雄さん



身延町
伊藤達志さん



身延町
石川 久さん



南部町
望月良治さん



さらに、峡南地域には、スクールサポーターが2名います。鵜沢警察署管内 小澤敏仁さん（写真左）と南部警察署管内 小泉公司さん（写真右）です。いずれも警察OBの方々に、地域の子もたちを見守っています。もちろん、このほかにも数多くのボランティアの方々に支えられ、子ども達は安全で楽しい学校生活を送ることができているのです。



身延山高校 学校説明会



小林学 校長

身延山高校（小林学 校長）は、7月10日（火）に中学校教員対象の学校説明会を開催しました。

県内20校、静岡県4校、神奈川県1校の中学校から、25名の参加があり、学校説明と部活動見学が実施されました。まずは担当生徒による校内案内で、参加者は5つの部（手話部、雅楽部、競技かるた部、茶道部、書道部）と、図書館などの学校施設を見学しました。



説明会では小林学校長から挨拶があり、「身延山高校は仏教の最高経典である法華経と日蓮聖人の教えに基づいた学校です。1学年1クラスの少人数教育で教師と生徒は強い絆で結ばれます。『行学二道』の教育理念のもと、生徒は学習活動はもちろん、自らの心を磨き、人間性を高めることに精進しています。」と述べました。その後、学校生活を紹介する在校生の作文朗読と、教育活動・入試説明がありました。参加した先生方は熱心に聞き入り、詳細な質問をしていました。

* 『行学二道』：行と学の二道に専念し邁進すること。行とは、「仏教や法華経の教えを日々実践すること」学とは「自ら進んで学び、その学んだ知識を正しい智慧として、さらに身につけていくこと」